

# STEREO CONTROL CENTER

## C-260

ステレオ・コントロール・センター

取扱説明書



Accuphase

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程および結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

---

## お 願 い

お客様カードを付属していますから、これに必要な事項をご記入のうえなるべく早く（お買上げ後10日以内）ご返送ください。お客様カードと引きかえに品質保証書をお届け申し上げます。

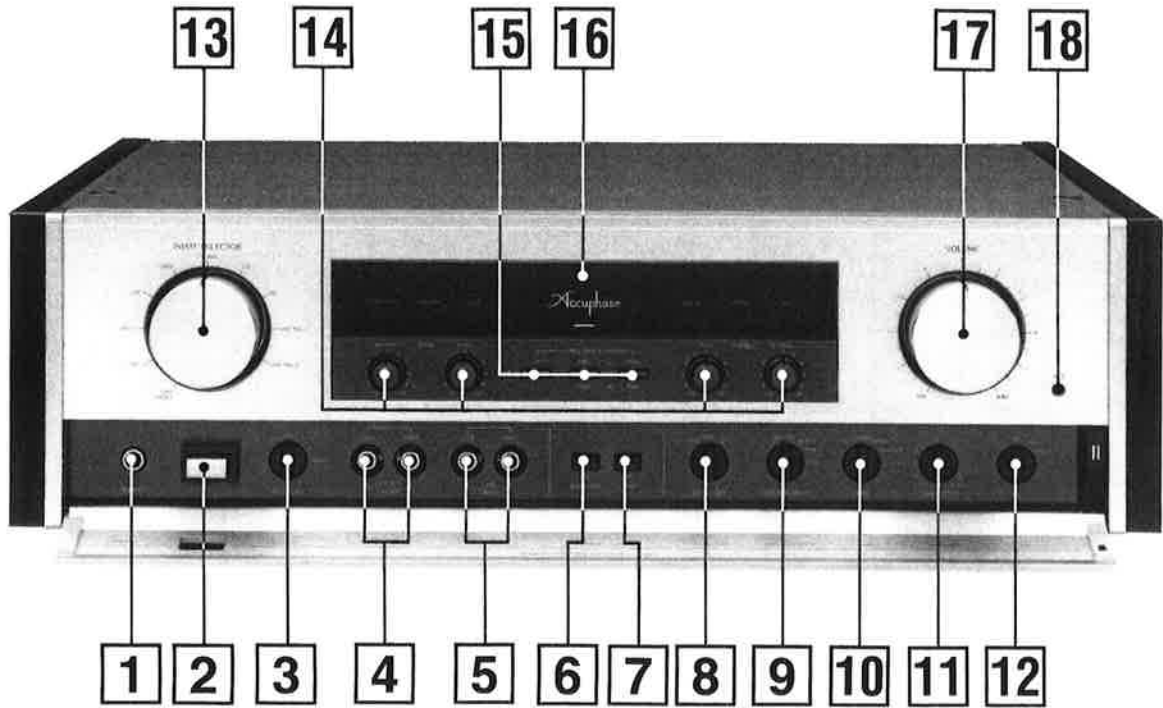
製品に関するお問い合わせ、または異常が認められるときは弊社、品質保証課または、お求めの専門店へ、直ちにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

## 目 次

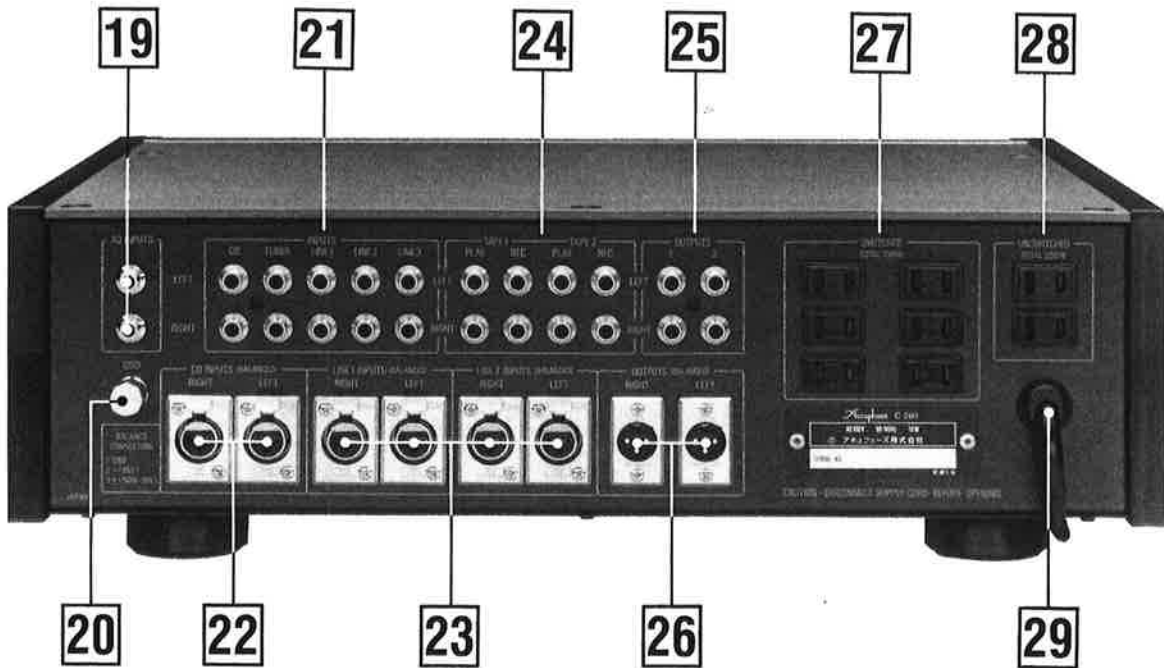
接続図	2
特長	3
各部の動作説明	4
ご使用方法	10
ご注意	12
保証特性	13
特性グラフ	14
ブロック・ダイアグラム	15

---

フロントパネル

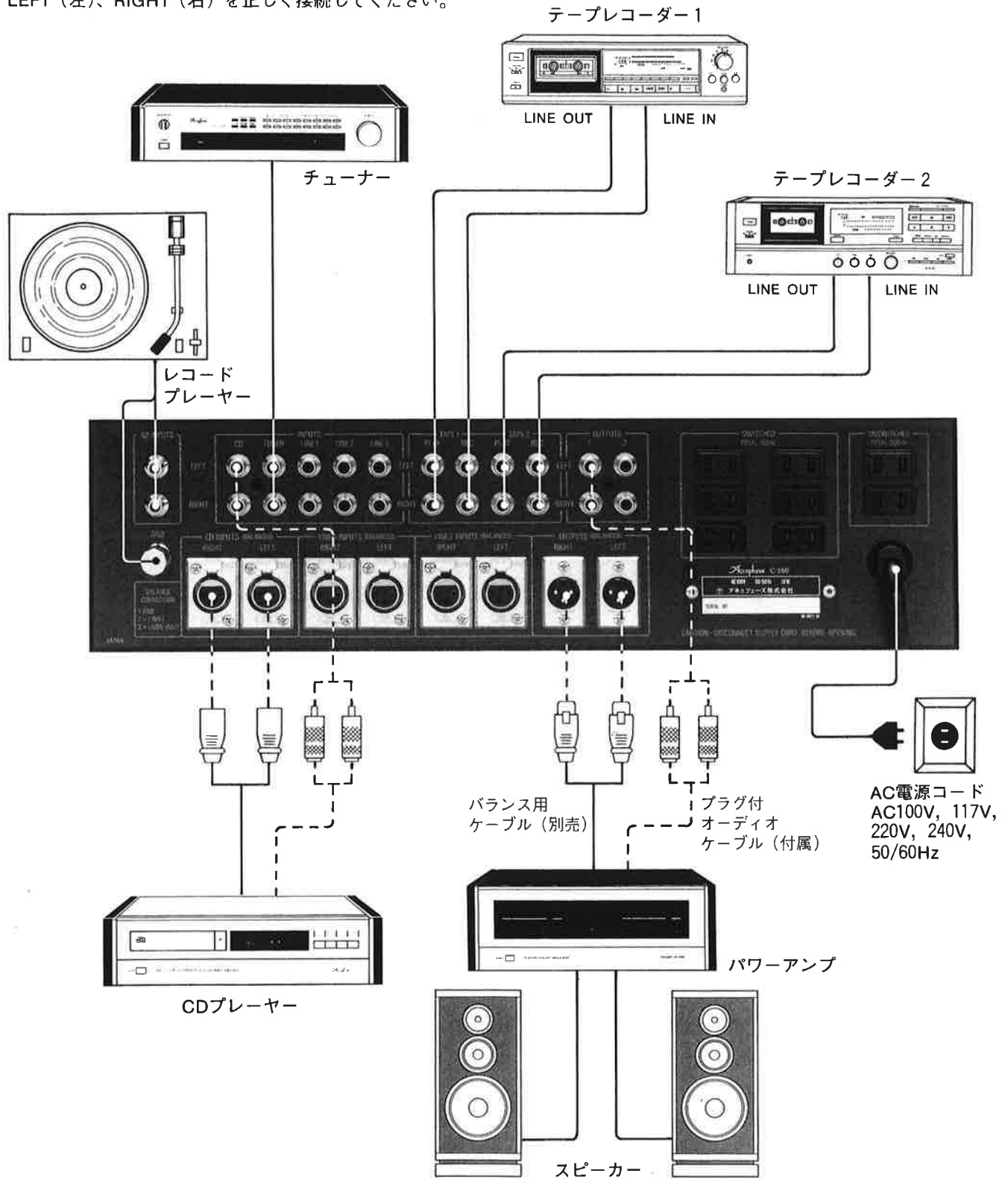


リアパネル



# 接続図

接続するときは、かならず各機器の電源を切り、  
LEFT (左)、RIGHT (右) を正しく接続してください。



# 特長

## ■究極のバランス伝送方式ラインアンプ

バランス伝送とは、お互いに位相が反転した対称信号を同時に送る方式で、コモンモード（雑音）成分を除去する能力に優れた、理想的な伝送方式です。

本機のラインアンプは、バランス伝送の究極を目指して、基本的に『3個の差動アンプで構成』されています。バランス時は、差動アンプの+−両入力から信号が入り増幅され、次の2個のアンプに入力されます。この2組のアンプは、それぞれの出力を相手側にフィードバックするという、たすき掛けの関係にあり、+−の対称信号を低いインピーダンスで送り出します。2組のアンプが相互に補完し合いながら動作するこの回路は、伝送理論に基づいたバランスアンプの理想型で、バランス伝送時にはノイズリダクション効果により、一段と優れたS/Nが期待できます。

## ■高音質・長期安定性に優れたロジック・リレーコントロール信号切替回路

切り替えのために信号経路を引き回すことは、音質の劣化につながります。本機は、切り替えが必要なその場所に『リレー』を設置し、これらを『ロジック回路で電子的にコントロール』するという、高信頼型切替機構を採用しています。さらに、『窒素ガス封入の完全密閉構造リレー』を開発、接点は、『金および銀パラジウム合金のクロスバー・ツイン方式』で、低接点抵抗、高耐久性の極めて質の高いものです。

## ■新開発4連動音量調整器

本機の入力レベル調整器は、特にひずみ率の小さい鏡面仕上げの抵抗体を採用しました。この鏡面化は、ひずみ特性が良好で耐摩耗性に優れ、しかもブラシと抵抗体の間には、グリースなどの音質を損なうようなものは塗られていません。また、もう一つの大きな特長は回転機構にあります。本機のアッテネーターは抵抗体が回転し、ブラシの部分が固定されて端子として直接外部に出るようになっています。このため金属接合部分が減り、音質向上に大きく寄与しています。

入力バランス回路の−（反転）と+（非反転）両方にこのアッテネーターが入り、しかも左右チャンネル連動のため4連構造を採用しました。また、連動誤差を極めて小さく抑えてありますので、左右チャンネルのスムーズな音量の立ち上がりを実現されています。

## ■新開発ヘッドフォン専用アンプ

夜間など大きな音が出せない時にも、良い音で聴いていただけるよう、新たに専用のDCサーボ直結方式のヘッドフォン・アンプを設けました。広範なインピーダンスのヘッドフォンを理想駆動することができます。

## ■MM、MCすべてのカートリッジにベストマッチングするフォノ・イコライザーアンプ

MM入力時は、カートリッジの高出力インピーダンスに整合させて、高S/NのFET素子で構成しました。一方MCは、微小信号を低インピーダンスで受けるため、低雑音素子による差動入力回路を構成、NFBループの低インピーダンス化を図ることにより、雑音の少ない再生を可能にしました。

## ■裸特性重視のライン入力アンプ

バランス入力アンプの基本構成は、アキュフェーズのオリジナル、『入力差動コンプリメンタリー・プッシュプル+カスコード・プッシュプル』回路で、性能を大幅に改善しました。入力段FET回路も『カスコード+コンスタント・カレント・ロード』になっており、FETにはハイgm素子を採用しています。

## ■増幅器、電源部を完全セパレートしたツインモノ構成

イコライザー/ライン/バランス・アンプはそれぞれ独立した電源部を備えています。しかも左右チャンネルそれぞれに専用電源トランスを設け、電気的に完全に分離しました。また、機械的にも各増幅器は左右チャンネルを独立させたユニットアンプとなっていて、左右および各ユニット間の干渉を防止し、万全を期しました。

## ■4ポイント6種類の周波数をコントロールする『プレゼンス・コントロール』

多様化するプログラムソースの音楽表現を微細にコントロールする音質調整機能を備えました。本機のプレゼンス・コントロールは、音楽表現上最も効果的な4ポイント6種類を調整できるように配慮しました。

音質劣化の少ない加算型フィルターの組み合わせで構成、音質重視の素子を厳選しました。これを挿入することによる特性・音質劣化はありませんが、プレゼンス・コントロールOFFの状態では、信号経路から外れます。

## ■周辺の機能

小音量再生時の聴感を補正し、エネルギーバランスを整える『ラウドネス・コンペンセーター』、曲のポジション・サーチ、電話の対応などで音量調整器をそのままにして瞬時に音量を減衰できる『アッテネーター』、アナログディスク再生時に、ディスクのそりなどによる超低周波雑音をとり除く『サブソニック・フィルター』を設けました。

## 各部の動作説明

### 1 PHONES — ヘッドフォン出力ジャック

ステレオ・ヘッドフォンで聴くときに、この出力ジャックにヘッドフォンのプラグを差し込んでください。インピーダンス4~600Ωのヘッドフォンをご使用ください。プラグを差し込んでも本機の4系統の出力信号は切れません。したがって、ヘッドフォンだけで聴くときは、③ OUTPUTS切替スイッチで出力を切るか、パワーアンプのレベルを下げてください。

### 2 POWER — 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約3.5秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。電源を入れると同時に“Accuphase”の文字が点灯し、ミュート解除とともにディスプレイ部中央の“—”が赤く点灯します。

### 3 OUTPUTS — 出力切替スイッチ

4系統の出力端子を切り替えるスイッチです。通常は“ALL”のポジションにしてご使用ください。

OFF：4系統の出力信号がすべて切れます。

ALL：すべてのOUTPUTS端子から出力されます。

BAL：リアパネルの⑳ OUTPUTS 端子(バランス)を選択します。

OUT 1, 2：リアパネルの㉑ OUTPUTS 端子(ピンジャック)を選択します。

FRONT：フロント側の④出力端子を選択します。

### 4 OUTPUT FRONT — フロント側出力端子

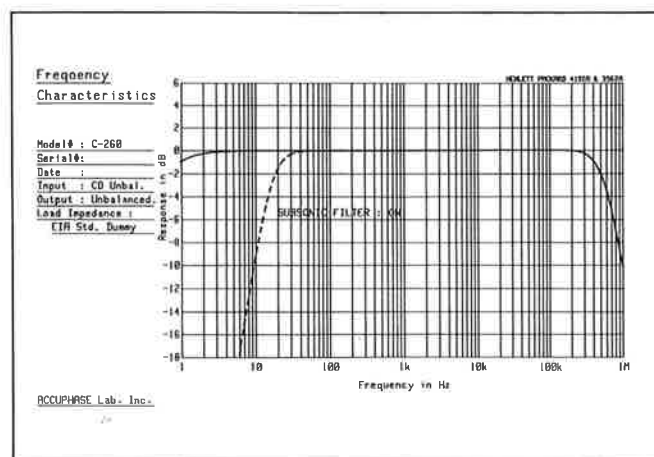
リアパネル側の㉑ OUTPUTSと同じように、本機の出力を取り出すことができます。

### 5 LINE FRONT — フロント側入力端子

リアパネルの㉒入力端子と同じように、CDプレーヤー、チューナー、テープレコーダーの出力を接続して使うことができます。

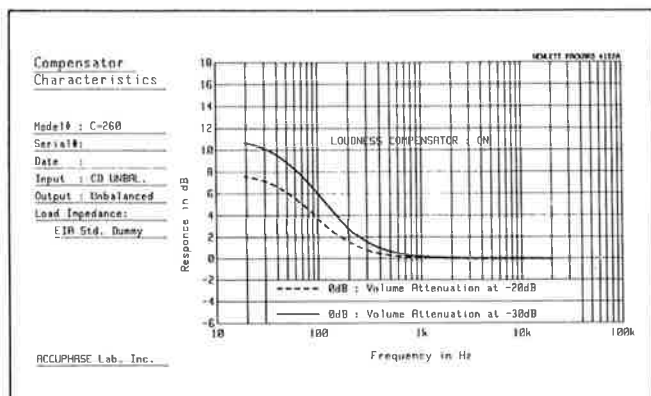
### 6 SUBSONIC — サブソニック・フィルター

サブソニック・フィルターは、可聴帯域外の超低域17Hz以下を12dB/octという急峻な特性でカットし、超低域ノイズが可聴帯域内へ悪影響を及ぼすことを防ぎます。レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動によりウーファーがゆれたりするときに大変有効です。スイッチを押してLEDが点灯し、サブソニック・フィルターはONです。



## 7 COMP — コンベンセーター(聴感補正)スイッチ

小音量で聴く場合の聴感上のエネルギー・バランスを調整するスイッチです。人間の聴感特性はボリュームを下げたときには、そのときの音量によって低音感が不足してきます。この量感を補うために、このスイッチが大変有効で、低音を100Hzで+6dB増強します。この増強する量はボリュームを-30dBまでしぼったときの値で、音量を上げれば順次、自動的に増強量は減少します。スイッチは押して“ON”でLEDが点灯します。



## 8 TAPE COPY — テープコピー・スイッチ

テープレコーダーを2台使って、テープのコピーをするときにこのスイッチを使います。

### 1→2、2→1

リアパネル④のTAPE-1に接続したテープレコーダーをマスターにして、TAPE-2のテープレコーダーでコピーする場合は“1→2”ポジションにします。逆の場合は“2→1”にします。

### OFF

コピーしない場合には、このポジションにします。

## 9 TAPE RECORDER — テープモニター、 録音出力ON/OFFスイッチ

### REC OFF

通常(テープレコーダーを使用しない場合)は、このポジションにします。⑬の入力セクターで選択するプログラムソースを演奏します。ただし、リアパネル④のテープレコーダー接続端子の“REC”端子には信号は出力されません。

### SOURCE

テープレコーダーを使用して録音する場合にはこのポジションにします。入力セクターで選択されたプログラムソースを演奏すると同時に、リアパネルのテープレコーダー接続端子の“REC”端子に信号が出力され、録音が可能になります。

### TAPE-1, 2

テープ再生をするときには、リアパネルの“TAPE-1”および“TAPE-2”へ接続したテープレコーダーをこのスイッチで選択してお聴きください。録音時にこのポジションに切り替えますと、そのとき録音している状況をモニターすることができます(3ヘッド・テープレコーダーの場合)。

## 10 MODE — モード切替スイッチ

### REV.

ステレオの左右チャンネルを入れ替えた状態の演奏ができます。

### STEREO

通常のステレオ演奏のときは、このポジションにします。

### MONO

左右チャンネルの信号がミックスされ、スピーカーの中央で聴くと音像は中央に定位します。

### R→L&R

両方のスピーカーから右チャンネルだけの音が出ます。

### L→L&R

両方のスピーカーから左チャンネルだけの音が出ます。

### 注意

録音をするとき“MONO”の状態(LED点灯)では、レコーディング出力もモノフォニックになります。

## 11 BALANCE — バランス調整

右に回すと左側の音が小さくなり、左に回すと右側の音が小さくなります。ステレオ再生時の左右音量バランス調整やシステム全体のレベルバランスを整えるときに有効です。通常はセンター、“0”で使用します。

## 12 AD (アナログ・ディスク) — イコライザー・ゲイン切替スイッチ

イコライザー・アンプ (LPレコードを再生する時に必要なアンプ回路) のゲイン (利得) を切り替えるスイッチです。

### MC

出力電圧が低いMC (ムービング・コイル) 型カートリッジを使用するときはこのポジションにします。ディスプレイ部のLEDが点灯します。

MM型カートリッジを使用中に、“MC” ポジションにしますと、音量が大きくなり、インピーダンスの関係で高域が出ないバランスのくずれた音になりますのでご注意ください。

### MM 1, 2

高出力電圧のMM (ムービング・マグネット) 型カートリッジのときのポジションです。出力電圧に応じて、MM1 (30dB) かMM 2 (36dB) を選択してください。このポジションの入力インピーダンスは47k $\Omega$ と高いため、MC型カートリッジ使用の場合には“MC” ポジションにしてください。

- 入力セレクターが“AD” ポジションの時、このスイッチを切り替えますと、ミュート回路が作動して約2秒間音が出ません。
- 音楽や音声信号が入力されていない状態で、ボリュームの位置を変えずにスイッチを切り替えると、能率の高いスピーカーではノイズが増減します。これはアンプのノイズレベルが変わらないで、増幅度が変わるための現象です。

## 13 INPUT SELECTOR — 入力セレクター

リアパネルの各入力端子に対応するポジションでプログラム・ソースを選択します。

### CD、TUNER、LINE-1~LINE-3、LINE FRONT

一般的なアンバランス方式で、リアパネル⑫およびフロント側⑮の各入力端子へ接続した機器を選択します。

### CD-BAL、LINE-BAL 1, 2

リアパネル⑫および⑬へ、バランス方式で入力した機器を選択します。

### AD

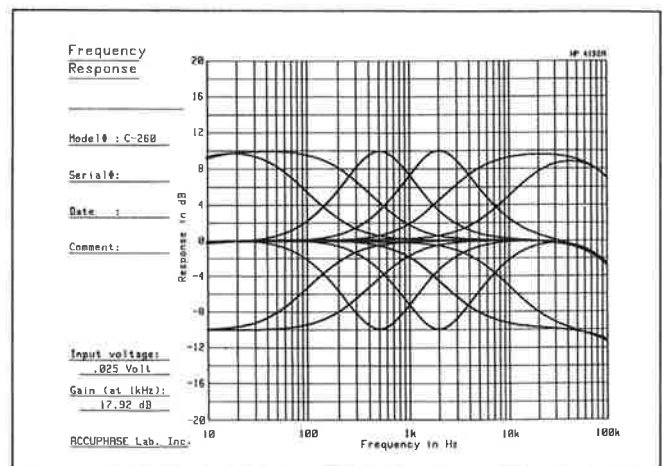
リアパネル⑭の“AD” 入力へ接続したアナログ・ディスク・プレーヤーを選択します。

## 14 BASS/TREBLE — プレゼンス・コントロール

プレゼンス・コントロールは、プログラム・ソースのイコライゼーションを目的とし、最も効果的に音楽表現を調整できるように配慮されています。周波数の可変範囲は下図の通り、4ポイント6種類、最大変化量は $\pm 10$ dBです。(各ツマミともセンターより左に回して0~-10dB、右に回して0~+10dBまで連続可変。)

500Hzはリズム楽器の表現に、2kHzはヴォーカルの出方を微細にコントロールします。低域の40/100Hzや高域の8/20kHzは全体のエネルギー・バランスと雰囲気調整するのに効果的です。

いずれのツマミも、⑮PRESENCEスイッチの左端ON/OFFスイッチを“ON”にしたときに作動します。





## 15 PRESENCE — プレゼンス・コントロールON/OFF および周波数切替スイッチ

プレゼンス・コントロール回路のON/OFFおよび低音部と高音部の周波数を切り替えるスイッチです。

- 左端がプレゼンス・コントロールON/OFFスイッチで、押して“ON”でプレゼンス・コントロール回路が作動します。手前に出すと“OFF”で、この回路は信号経路からはずれません。
- 中央が低音部の周波数切替スイッチで、押して40Hz以下（40Hz以下で最大変化量が得られる）の周波数コントロール、手前に出すと100Hz以下をコントロールします。
- 右端が高音部の周波数の切り替えで、押して20kHz以上、手前で8kHz以上となります。

## 16 ディスプレイ部

各スイッチの動作ポジションなどを、LEDの点灯により表示します。

### 出力表示LED

出力がある場合には中央部の“—”が赤く点灯します。電源ON時、ADゲインスイッチ操作時など、ミュートイング回路が動作して出力がない場合には消灯します。

### OUTPUT OFF

③OUTPUTSスイッチが“OFF”のとき、点灯します。

### SUBSONIC

⑥SUBSONIC FILTERスイッチがONのとき、点灯します。

### COMP

⑦COMPENSATORスイッチがON状態のとき、点灯します。

### REC OUT

⑨TAPE RECORDERスイッチが“REC OFF”以外のポジションで点灯し、録音可能状態を表示します。

### MONO

⑩MODEスイッチが“MONO”の場合に点灯します。

### MC

⑫ADスイッチが“MC”ポジションのとき、点灯します。

## 17 VOLUME — ボリューム調整

右へ回すと音量が増大します。ディスクをかけた時、プログラム・ソースを切り替えたり、電源を切るときなどはボリュームを下げることを習慣づけましょう。

## 18 ATT — アッテネーター

本機の出カレベルを瞬時に20dB減衰させることができます。押してスイッチ頭部のLED点灯で“ON”状態です。

ボリュームを一定のレベルにしておいて、比較試聴するときなどの頭出しに便利です。また、瞬時に音量を下げたいときにも大変便利です。

## 19 AD — アナログ・プレーヤー入力端子

この入力端子にはLPレコード・プレーヤーの出カケーブルを接続してください。本機は高性能ハイゲイン・イコライザーを搭載していますので、いかなるカートリッジにも対応することができます。

## 20 GND — アース端子

アナログ・プレーヤーの出カケーブルといっしょに出ているアース線を接続して下さい。

## 21 CD、TUNER、LINE-1～LINE-3— ハイレベル入力端子

この入力端子は入力インピーダンス20kΩのアンバランス方式、つまり一般的なハイレベル入力の端子です。この入力端子はすべて同じ働きをします。

## 22 CD INPUTS — バランス入力時のCD入力コネクター

伝送途中の外来雑音によって誘発された不要ノイズをキャンセルし、音質の劣化を防止するバランス伝送は、放送局や業務用機器の信号授受に広く使われている方式です。

このXLRコネクターは、入力インピーダンスが40k $\Omega$ のバランス型になっています。CDプレーヤーに限ることなく、チューナーなどのバランス出力をもつ機器を接続してください。ピン接続は、①：グラウンド、②：インバート（-）、③：ノン・インバート（+）となっており、このコネクターはXLR-3-31相当品で、接続する適合コネクターはXLR-3-12C相当品です。

## 23 LINE INPUTS 1, 2 — バランス入力時のライン入力コネクター

CDのバランス入力コネクターと同じように、バランス出力をもつ機器を接続することができます。

## 24 TAPE-1/TAPE-2 — テープレコーダー再生/録音端子

TAPE-1、TAPE-2それぞれにテープレコーダーを接続することができます。“PLAY”端子にはテープレコーダーの“LINE OUT”からの出力ケーブルを、“REC”には“LINE IN”からのケーブルを接続してください。

REC端子の出力信号は、本機のボリュームやフィルター、コンペンセーターなどの影響を受けませんが、⑩MODEスイッチが“MONO”になっているときは、この出力もモノフォニック状態になります。録音時にはご注意ください。

## 25 OUTPUTS — 出力端子(アンバランス)

2系統の出力は、出力インピーダンスが1 $\Omega$ で、一般の機器と同じアンバランス接続になっています。

通常は、この内の1系統を使って出力を取り出し、パワーアンプへ接続します。

## 26 OUTPUTS — バランス出力コネクター

このXLRコネクターは、出力インピーダンス50 $\Omega$ のバランス接続になっています。入力インピーダンス600 $\Omega$ 以上のパワーアンプ、その他の機器を接続することができます。ピン接続は、①：グラウンド、②：インバート（-）、③：ノン・インバート（+）となっており、このコネクターはXLR-3-32相当品、適合するコネクターは、XLR-3-11C相当品です。

## 27 SWITCHED — 電源スイッチと連動するACコンセント

本機と接続する機器の電源をこのコンセントから取ると、電源スイッチをON/OFFすることにより、他の機器の電源も同時にON/OFFすることができます。接続する機器の消費電力の合計が700Wを超えないようにご注意ください。

## 28 UNSWITCHED — 電源スイッチに連動しないACコンセント

本機の電源コードを室内のコンセントへ接続すると、電源スイッチのON/OFFに関係なく、他の機器へ電源を供給することができます。消費電力が200Wを超えないように注意してください。

## 29 AC電源コード

### ■AC電源の極性について

室内のコンセントは大地に対して極性をもっています。アンプのACプラグにもこのような極性があり、室内のコンセントとアンプの極性を合わせた方が、音質上良い結果が得られる場合があります。

C-260は、電源コードプラグの片側に“W”の刻印が打たれています。このW側が接地側『W極』になっていますので、室内コンセントの極性がわかっている場合は、互いに合うように接続してください。なお、この極性は合わせなくても実用上問題になることはありません。

室内コンセントの極性は一般に、向かって左側（穴が右に比べて大きい）が『W極』ですが、不明のときはチェッカーで確認する必要があります。

本機のSWITCHED/UNSWITCHEDコンセントも向かって左側が『W極』です。

### ■AC電源電圧の変更とヒューズについて

本機は、使用できる電源電圧を100V、117V、220V、および240Vの4段階に切り替えられます。底板側、電源トランス下側のジャンクション・ターミナルで接続変更をする必要があります。また、電源1次側のヒューズは底板側、電源トランスの横についていますが、電源電圧の変更やヒューズが切れて電源が入らなくなったときは、弊社品質保証課、またはお求めの専門店へご連絡くださいますよう、お願いいたします。

# ご使用方法

## ■使用される前に

POWERスイッチは、各機器にLEFT（左）/RIGHT（右）とも、正しく接続されるまで入れないでください。

ツマミの位置を確認します。

- VOLUME：下げた（左にまわしきった）状態
- OUTPUTS：ALL
- TAPE COPY：OFF
- TAPE RECORDER：REC OFF
- MODE：STEREO
- BALANCE：中央位置
- SUBSONIC、COMP、ATT：OFF（LED消灯）
- PRESENCE：OFF

## CD（コンパクト・ディスク）をお楽しみになる場合

CDプレーヤーのアナログ出力をリアパネル⑳のCD入力端子（またはTUNER、LINE端子）へ接続してください。また、CDプレーヤーがバランス出力を装備している場合は、㉒のバランス用“CD INPUTS”端子をご使用ください。

接続終了後は、次の手順で操作してください。

- ① VOLUMEが下がっていることを確認し、本機とともにCDプレーヤーやパワーアンプの電源を“ON”にしてください。
- ② フロントパネルの⑬入力セクターでCDポジション（または入力したポジション）を選択して下さい。
- ③ CDプレーヤーを演奏状態にして、VOLUMEを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを上げ下げして再生状態を確認してください。
- ④ MODEスイッチをモノフォニック状態にし、音像が中央に定位することを確認したり、コンペンセーター、プレゼンス・コントロールなどの効き具合をお試しください。

## アナログ・ディスク（AD）をお楽しみになる場合

LPレコードを再生するときは、レコード・プレーヤーの出力ケーブルをリアパネル⑲のAD端子へ正しく接続してください。プレーヤーの出力ケーブルといっしょに出ているアース線は㉑GND（グラウンド）端子へ接続します。

接続終了後は、次の手順で操作をしてください。

- ① VOLUMEMが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れて、入力セクターの“AD”ポジションを選択してください。
- ② 使用するカートリッジにより、㉓ADスイッチでMMかMCを選択します。
- ③ カートリッジをレコード面におろし、ボリュームを上げていくと演奏が聴こえてきます。ボリュームを上げ下げして再生状態を確認してください。また、コンペンセーターなどを操作して再生音の調子を見ましょう。
- ④ レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動でスピーカーの振動板が揺れたりする場合は、⑥SUBSONICフィルターを入れると、超低域ノイズによる可聴帯域への影響を軽減することができます。

## チューナーで放送を聴く場合

チューナーの出力ケーブルをリアパネル㉔のTUNER入力端子（またはCD、LINE端子）へ接続します。また、チューナーがバランス出力を装備している場合は、㉒のバランス用“LINE INPUTS”端子をご使用ください。

CD再生と同じ要領で入力セクターを合わせ、他のスイッチ類のポジションを確認してください。チューナーが放送局に同調していれば、ボリュームを上げると放送が聴こえます。

## テープレコーダーで録音・再生をする場合

リアパネル㉕TAPE-1（またはTAPE-2）のREC端子とテープレコーダーのLINE IN端子、PLAY端子とテープレコーダーのLINE OUT端子が、左右チャンネルそれぞれ正しく接続されていることを確認してください。

### 【再生：プレイバック】

TAPE RECORDERスイッチでTAPE-1（またはTAPE-2）に合わせ、テープレコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

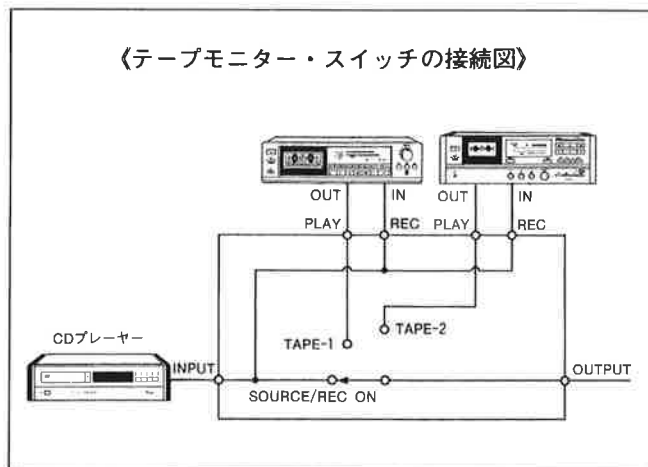
テープレコーダーを再生だけに使用する場合は、AD以外の各入力端子を使うことができます。

## 【録音：レコーディング】

レコーディングをする場合は、次の手順で操作してください。

- ① 録音するプログラム・ソースを入力セレクターで選択し、スピーカーから音を出して確認してください。
- ② TAPE RECORDERスイッチをSOURCEポジションにします。テープレコーダーへの信号がREC端子から出力されます。
- ③ テープレコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。
- ④ 本機のボリュームやプレゼンス・コントロールなどは、録音される音には関係しませんので、音量を下げて静かに録音することができます。録音レベルは、レコーダー側で調整してください。なお、モード・スイッチがモノフォニック状態になっていると、録音出力もモノになってしまいますから注意してください。
- ⑤ TAPE RECORDERスイッチをTAPE-1（またはTAPE-2）へ切り替えると、録音を続けながら、録音されたテープのモニターができます。（3ヘッド・テープレコーダーの場合）。
- ⑥ TAPE1, 2の各REC端子には同じ信号が出力されますので、2台のテープレコーダーで同時録音も可能です。

〈テープモニター・スイッチの接続図〉

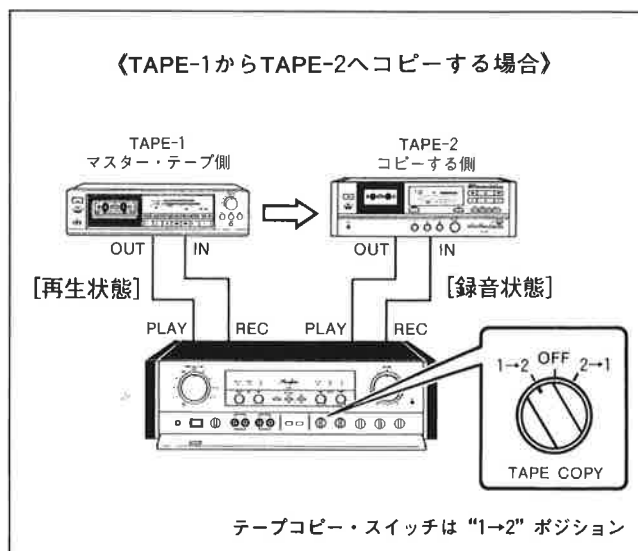


## 【テープコピー】

本機にはTAPE COPYスイッチがついていますので、他のプログラム・ソースを聴きながら、まったく独立してテープレコーダー相互間でコピーすることが可能です。ただし、電源OFFの間にはできません。操作は次の手順で行ってください。

- ① TAPE-1側をマスターとしてTAPE-2へコピーする場合は、
- ② TAPE COPYスイッチを“1→2”ポジションにします。逆の場合は“2→1”にしてください。
- ③ マスター側のテープレコーダーを再生状態、コピー側のレコーダーを録音状態にすればコピーができます。
- ④ “1→2”でコピーをしている場合は、TAPE RECORDERスイッチを“TAPE-1”にするとマスター・テープの音が、“TAPE-2”にするとコピーされたテープの音が聴けます。“2→1”のときは逆になります。

〈TAPE-1からTAPE-2へコピーする場合〉



## 【電源OFF時のチューナー録音】

本機はロジック・リレーコントロール回路を使用しています。これにより電源OFFの場合でも、入力セレクターやTAPE COPYスイッチなどの位置に関係なく、バックパネルのTUNER端子に接続されている信号が、TAPEのREC端子に出力されます。したがって、チューナーなどをタイマーで留守録音するときには、本機の電源を入れなくても録音が可能になります。

## ご注意

### ■発熱と使用上の注意

本機の各アンプ回路は、全段がA級ドライブになっていまずので発熱があり、通電時間が長くなった場合、ケース上面を触れると熱く感じますが、性能や耐久性にはまったく支障ありません。回路部分、機構部品や構造などへの、熱に対する配慮は十分に行っていますが、狭くて通風の悪い場所への設置は避けるようにしてください。また、直射日光の当たるところや暖房器具の近くへの設置も避けるようにしてください。

### ■パワーアンプや他の機器と直接かさねて設置しないようにしてください

本機はハイゲイン・イコライザー回路を内蔵したプリアンプであるため、パワーアンプや他の機器の漏洩磁束による電磁誘導によって、ハム音（ブーンという音）がスピーカーから聴こえることがあります。このような場合は、パワーアンプや他の機器と直接重ねてのご使用は避けると同時に、機器間の距離は10cm以上離してください。また、ラックなどに収納して使うときは、パワーアンプの放熱にもご配慮ください。

### ■入力ケーブルを抜き差しする場合は、必ず電源を切ってから行ってください。

RCAタイプのピンプラグ（通常のオーディオ機器に使用されているもの）を端子から抜き差しするときは、プラス側、マイナス側ともに同時に入ったり切れたりせず、プラス側が先に入ったり、残ったりする構造のため、一瞬マイナス側が浮いた状態になって大きなショックノイズを発生し、スピーカーを破損する原因になります。

各機器間の入出力ケーブルを抜き差しする場合は、必ず電源をOFFにしてから行ってください。

### ■レコード・プレーヤーなどを操作するときは、必ずアンプのVOLUMEを下げてから行うようにしてください。

広帯域ハイパワー・アンプを使用して、カートリッジをレコード盤面から上げたり下げたりするとき、スピーカーに聴感上それほどの音圧を感じなくても、超低域の大電流が流れてスピーカーを破損する場合があります。このような場合、必ずアンプのVOLUMEを下げてから行うようにしてください。

### ■パーシモン・サイドボードについて

サイドボードは、パーシモンの美しい木目を活かした外観で仕上げられています。ボードの汚れを取るときは、硬くしぼった柔らかい布で丁寧に水拭きをしてください。

木工製品用の各種ワックスが市販されていますが、使用後に悪い結果を招くことがありますのでご注意ください。

### ■その他

- 電源コードは無理に曲げたり、重い物を乗せたりしないでください。電源コードを抜くときは、必ずプラグを持ってください。
- トッププレートや底板は絶対にはずさないでください。内部に手などで触れますと感電事故や故障の原因となり、大変危険です。
- 本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

# 保証特性

[保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる/AD:アナログ・ディスク]

## 周波数特性

BALANCED INPUT: [CD/LINE]

1.0~600,000Hz +0 -3.0dB  
20 ~ 20,000Hz +0 -0.2dB

UNBALANCED INPUT: [CD/TUNER/LINE/TAPE PLAY]

1.0~600,000Hz +0 -3.0dB  
20 ~ 20,000Hz +0 -0.2dB

AD INPUT

20 ~ 20,000Hz ±0.2dB

## 全高調波ひずみ率

0.005% (すべての入力端子にて)

## 入力感度・入力インピーダンス

入力端子	入力感度		入力インピーダンス
	定格出力時	0.5V 出力時	
AD:MM1	8.0mV	2.0mV	47kΩ
AD:MM2	4.0mV	1.0mV	47kΩ
AD:MC	0.25mV	0.063mV	100Ω
BALANCED	252mV	63mV	40kΩ
UNBALANCED	252mV	63mV	20kΩ

## 定格出力・出力インピーダンス

BALANCED OUTPUT : 2.0V 50Ω XLRタイプ・コネクター  
UNBALANCED OUTPUT : 2.0V 1Ω RCAフォノジャック  
TAPE REC : 252mV 200Ω RCAフォノジャック/AD入力時

## ヘッドフォン端子

適合インピーダンス 4~600Ω

## S/N・入力換算雑音

入力端子	入力ショート IHF-A補正		EIA S/N
	定格出力時 S/N	入力換算雑音	
AD: MM1	96dB	-138dBV	90dB
AD: MM2	90dB	-138dBV	90dB
AD: MC	80dB	-152dBV	70dB
BALANCED	116dB	-128dBV	96dB
UNBALANCED	116dB	-128dBV	96dB

## 最大出力レベル (ひずみ率 0.005% 20~20,000Hz)

BALANCED OUTPUT : 7.0V XLRタイプ・コネクター  
UNBALANCED OUTPUT : 7.0V RCAフォノジャック  
TAPE REC : 7.0V RCAフォノジャック/AD入力時

## AD最大入力電圧 (1kHz ひずみ率 0.005%)

MM1 INPUT : 250mV  
MM2 INPUT : 125mV  
MC INPUT : 8mV

## 最小負荷インピーダンス

BALANCED OUTPUT : 600Ω  
UNBALANCED OUTPUT : 1kΩ  
TAPE REC : 10kΩ

## ゲイン

BALANCED INPUT → BALANCED OUTPUT : 18dB  
BALANCED INPUT → UNBALANCED OUTPUT : 18dB  
BALANCED INPUT → REC OUTPUT : 0dB  
UNBALANCED INPUT → BALANCED OUTPUT : 18dB  
UNBALANCED INPUT → UNBALANCED OUTPUT : 18dB  
UNBALANCED INPUT → REC OUTPUT : 0dB  
AD [MM 1/MM2] INPUT → BALANCED OUTPUT : 48/54dB  
AD [MM 1/MM2] INPUT → UNBALANCED OUTPUT : 48/54dB  
AD [MM 1/MM2] INPUT → REC OUTPUT : 30/36dB  
AD [MC] INPUT → UNBALANCED OUTPUT : 78dB  
AD [MC] INPUT → REC OUTPUT : 60dB

## プレゼンス・コントロール

4バンド方式  
周波数: 40Hz/100Hz切替、500Hz、2kHz、8kHz/20kHz切替  
可変範囲: ±10dB

## ラウドネス・コンベンセーター (音量調整 -30dB)

+6dB (100Hz)

## サブソニック・フィルター

17Hz -12dB/oct

## アッテネーター

-20dB

## 使用半導体

59 Tr 25 FET 26 IC 57 Di

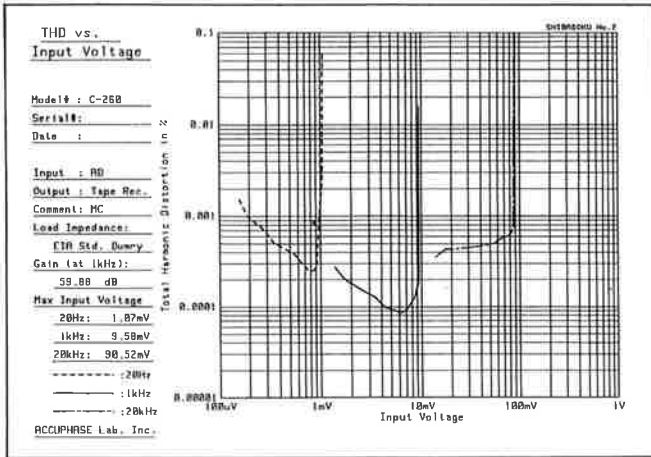
## 電源および消費電力

100V、117V、220V、240V 50/60Hz 19W

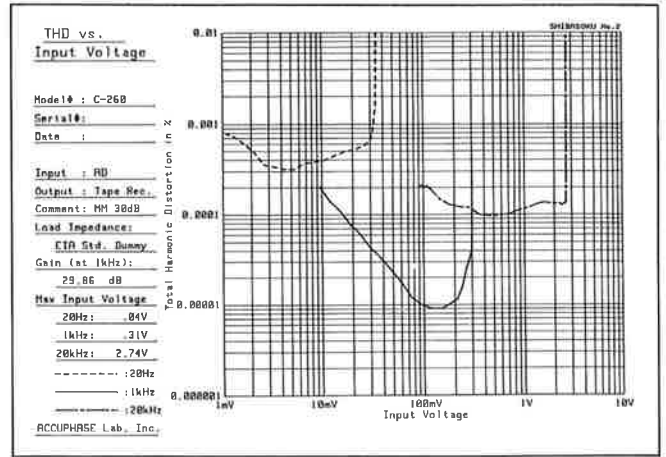
## 寸法・重量

幅475mm×高さ149mm (脚含む) ×奥行375mm  
18.4kg

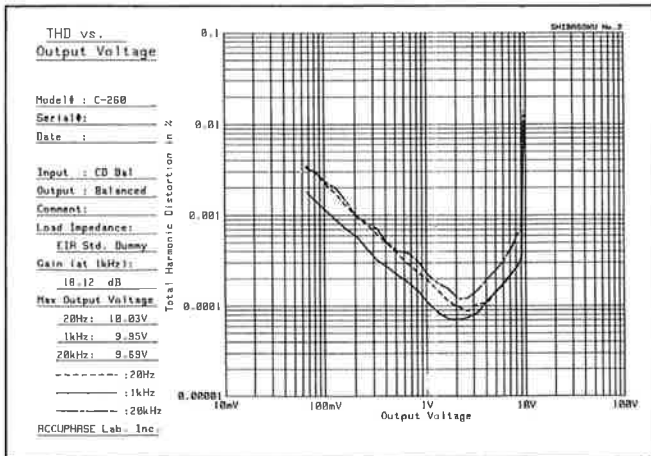
# 特性グラフ



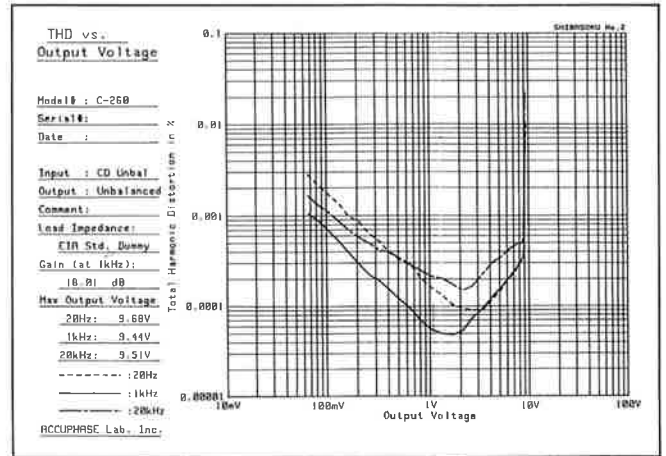
入力電圧：全高調波ひずみ率 (入力：MC/出力：テープ出力端子)



入力電圧：全高調波ひずみ率 (入力：MM/出力：テープ出力端子)



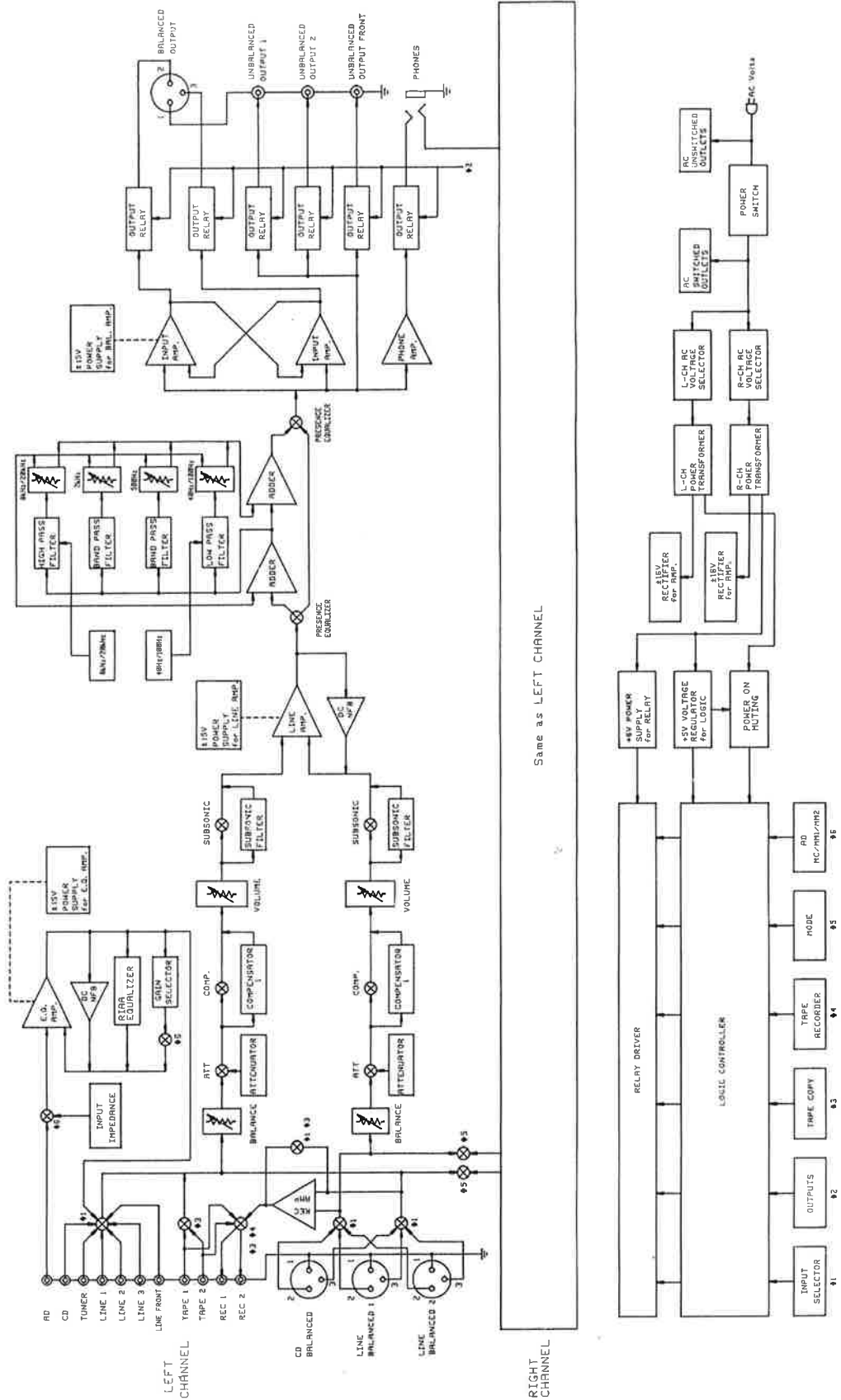
出力電圧：全高調波ひずみ率 (入力：CD平衡/出力：平衡端子)



出力電圧：全高調波ひずみ率 (入力：CD不平衡/出力：不平衡端子)



# ブロック・ダイアグラム



Accuphase

ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市緑区新石川2-14-10

〒225 TEL(045)901-2771(代表)